



若者へのメッセージ 22

作家 阿刀田 高

【第三回】55対45を見極める

「オール・オア・ナッシング」という言葉は、二つだけで結果を評価する考え方だ。人生はそんなふうに進むものではない。私たちは、少しの差でもより良いものを求める努力こそが大切である。

五十歩と百歩は同じではない

「五十歩百歩」という言葉を知ってますよね。
「人事異動があるんだろ。だれが課長になるのかなあ」

「田中さんかな、佐藤さんかな」

「五十歩百歩。変わらないよ、どの道」

などを使う。

少しの違いはあるけれど、本質的にはほとん

ど同じ、というときに使う。

もとはと言えば中国の古い『孟子』に記されているエピソードから生まれた言葉で、戦場で

五十歩逃げた兵士が、百歩逃げた兵士を「臆病だ」と笑ったが、逃げた点では同じなのだから笑う資格はない、というたとえ話である。

なるほど、確かに敵前逃亡、兵士としてはと

もに叱責される行為だが、はて、そうかな。五

十歩逃げるのと、百歩逃げるのとは、やっぱり

違う、と私は思う。むしろ、このたとえ話は嘘っ

ばち。信じてはいけない。私たちは五十歩と百歩の違いの中で生きている、と言ってもよい。

たとえばビジネスの現場。三百万円の利益を出すことが目標であったのに対し、なんとか努力して百万円の利益を出したのと、五十万円の利益に終わったのと、目標は達せられなかったところは同じだが、結果は明らかに違う。これを同じだと言われたら営業はやっていられない。大学受験だって志望校には入れなかったけれど、滑り止めに受かったのと、まるで駄目だったのは明白に異なる。

オール・オア・ナッシングという言葉もあって、これもよく似ている。つまりオール（全て）であるか、ナッシング（ゼロ）であるか、この二つだけで結果を評価する考え方だ。

「どんな嫁さんがいい？」

「美人で、賢くて、性格がよくって、健康で、

いい家庭で育った女がいいな」

「そんなの無理だよ」

「そうでなきゃ結婚しない。独りでいい」

強い主義主張があるのなら、このケース、仕方ないけれど、全くもって現実的ではない。

「東大に入れなきゃ、大学へ行かないよ」も、

これに近い。

若いうちは理想を高く持って、それが叶わなければ、

色紙
プレゼント
のお知らせ

■阿刀田高先生ご揮毫の色紙を1名様にプレゼントいたします。はがきに、「阿刀田高先生の色紙希望」と明記のうえ、「若者へのメッセージ」に対するご意見・ご感想を添えて、編集部宛にお申込みください。締め切りは9月29日（金）です。ふるってご応募ください。なお、色紙の発送をもって発表にかえさせていただきます。

「花は散るために咲く」

花は
散る
ために
咲く



——俺は駄目だな——

落ち込んで、適切な判断を失ってしまうことも多いが、人生はけっしてそんなふうに進むものではない。百歩逃げるより五十歩で止まるほうがましなのだ。少しの差でもより良いものを求める細かい努力こそが大切なのだ。全部が叶えられなければ尻尾を巻いて逃げ出すのでは、なにも成就できない。

私は「右か、左か、判断に迷うときは、55対45のよしあしなのだ」を信条としている。右を選べば90ポイント、左を選べば10ポイント、こういうケースで人は迷わない。70対30、60対40でも迷わないだろう。迷うのは両者の差がけっして大きくないときだ。その間のせいせい10ポイントの差をどう見極めるか、よく考えてどう決断するか、判断の基準はすべてこのあたりにある、と考えるのが肝要だと思う。

私はかつて若いころ、安定した公務員の職を続けるか、やめてフリーの物書きになるか、おおいに悩んだ。どっちがよいか、まさに55対45くらいの状況で、困ったことにどっちが55かわからない。50対50のような気もする。最後に「自分の好む道を行こう」とこれに5点を加えて、後者を選んだような気がする。